

【短大新校舎建設 賛成討論】

議案第19号「大月市大月短期大学特別会計予算」について賛成討論を行います。

大月短期大学の校舎建設の経緯ではありますが、現在大学で使用している本館棟並びに旧附属高校の校舎は、昭和43年に建設したものであり、建物も老朽化しており、大学認証評価においても建物の耐震化などが指摘をされているところでもあります。

そのため、魅力ある校舎の整備は、人口減少による学生の確保にあたって必須であると思われます。

このような中で、平成27年度から29年度の継続事業で行う校舎建設は、「大月市内の公共建築物における木材の利用の促進に関する方針」に基づき、林野庁の「森林・林業再生基盤づくり交付金」を活用し、約2,483㎡の規模で図書館・講堂・コース選択制導入に伴う小教室・大月高校記念室などを木造の2階建てで整備する計画と伺っております。

「鉄筋コンクリート造と木造との建設費の比較」についてではありますが、木造建築の方が鉄筋コンクリート造に比べ同規模で約1億1千万円高くなります。

(木造建設工事費 $m^2=343,600$ 円 坪=1,135,870 円)

(RC建設工事費 $m^2=298,200$ 円 坪= 985,785 円)

しかしながら、林野庁からの「森林・林業再生基盤づくり交付金」を活用することにより、一般財源規模では、約1億3千万円程度の節減ができるものとの試算があったと伺っています。

また、維持管理経費の中で、木造とすることにより必要となるものは、木材面の保護塗料の定期的な塗装として、5年に1度、約500万円程度の経費が掛かると見込んでおりますが、林野庁からの交付金を利用することの差額で十分賄えると試算しています。

「耐用年数の比較」であります。国土交通省の「木造計画・設計基準」では、木造建築の場合は、耐久性に配慮した設計・施工と適切な維持管理により、50年から60年とされており、RC鉄筋コンクリート造の65年と遜色そんしょくはありません。

【結果として】

総事業費で約12億6千万円を予定しており、その財源の内訳といたしましては、公立短期大学では、施設整備費国庫補助金が無いことから、森林・林業再生基盤

づくり交付金約2億4千7百万円、短大施設整備基金約7億4千8百万円、地方交付税の基準財政需要額に元利償還金の30%が算入される地域活性化事業債約2億3千7百万円、入学時施設納付金など約2千5百万円などを活用し、一般会計からの繰入金を極力抑制し財源の確保に工夫をしていることが伺えます。

また、最終的に解体をする場合には、現在の単価で、RC造の場合は、約6,240万円で、木造の場合は、約半分の3,120万円で施工できるメリットもあります。

いずれにいたしましても、より、健康的で温もりのある教育環境の整備が出来、木造建築による、心理・情緒・健康面への効果、山林保全や地域経済の活性化、街づくりへの寄与など様々な効果が見込まれるところであり、大月短大では、今回の木造での建築に平成28年度より導入するコース選択制と相まって、学生の確保、更には市内産の木材使用量が約140^{りゅうべい}m³であり地域の活性化にも寄与できるものと思いますので、「大月市大月短期大学特別会計予算」に賛成致します。